

調べ案内 古生物について調べる



数億年前の地球は、今とまったく違う世界でした。現代に生きる私たちは、化石を通じて、古生物が生きた太古の地球の姿を知ることができます。この調べ案内では、古生物について調べるにあたって参考となる図書やインターネット情報をご紹介します。図書館の資料や情報を活用すれば、あなたの古生物の世界はぐんと広がります。さあ、一緒に古生物の世界へ！

目次

- 1 用語の意味を知る
- 2 古生物のいた時代を知る
- 3 古生物について調べる
 - (1)化石について調べる
 - (2)それぞれの古生物について調べる
 - (3)生きた化石について調べる
- 4 埼玉の古生物について知る
- 5 古生物の研究について知る
 - (1)データベースで最新情報を調べる
 - (2)雑誌で最新情報を調べる
 - (3)新聞記事で最新情報を調べる

図書館の本の探し方

●キーワードで検索する

図書館の蔵書検索システムやインターネット等で調べる際は「キーワード」や用語辞典に掲載されている言葉などを組み合わせて検索を行うと、手際よく情報を集めることができます。

●図書館の棚を見て探す

日本の多くの図書館では、「日本十進分類法」を用いて、本の内容を10の主題にわけてまとめ、数字の記号をつけています。埼玉県立図書館では、原則として、この記号の数字の順に本が並んでいます。記号をヒントに棚を探すと関連する様々な本が見つかります。古生物に関する本は、主に45(地球科学・地学)や46(生物科学・一般生物学)が記号の頭につきます。

450 地球科学・地学 455 地質学 456 地史学、地質学
457 古生物学、化石 467 遺伝学 467.1 進化論

アイコンの説明



参考図書 (館内閲覧のみ)



一般資料



インターネット情報



オンラインデータベース

[熊][熊外]は熊谷図書館の資料です。それ以外はすべて当館所蔵の資料です。
※が付いた資料の取り寄せを希望される場合は、カウンターの職員にお申し付けください。

資料リスト「いにしへの生き物たち～個性あふれる古生物の世界～」(2026 年 7 月作成) も併せてご利用ください。

1 用語の意味を知る

言葉の意味や概要について知るには、辞書・事典類を活用すると便利です。また、本や情報を調べる際に役に立つ「キーワード」もこのような辞書・事典から見つけることができます。必ず複数の資料にあたり、情報を比べるようにしましょう。



『化石・恐竜レファレンス事典』(日外アソシエーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2019)

化石や恐竜などの古生物が、国内で刊行された化石・恐竜・古生物の図鑑・事典のどのページにどのような見出しで載っているかが分かる [図鑑の総索引](#) です。名称の五十音順に、学名・英名、漢字表記、解説、掲載資料名(略称)、掲載ページ、図版種類(モノクロ/カラー、写真/図)などを掲載しています。巻末には学名・英名索引があります。



ジャパンナレッジ Lib (ネットアドバンス)

[辞書・事典を横断的に検索](#)できるデータベースです。80種類以上の百科事典や国語辞典、語学辞書、人名辞典など、多彩なコンテンツを一括で検索できるため、基礎的な情報を多角的に調べることができます。〈恐竜〉をキーワードに見出し検索すると、『日本大百科全書』や『世界大百科事典』、『旺文社生物辞典』、『数え方の辞典』などがヒットし、その内容を確認することができます。

2 古生物のいた時代を知る

古生物について調べるには、まず地質学の対象となる地球の歴史を知ることが大切です。地球の歴史は「地質年代」と呼ばれる時間軸で区切られています。地質年代は、地層や岩体の記録、含まれる化石を基に区分されます。三葉虫の化石が多く含まれていれば「古生代」、恐竜であれば「中生代」、哺乳類は「新生代」などが、その例です。

ここでは、それぞれの地質年代の特徴がわかる資料をご紹介します。当時の地球の環境を知ること、古生物たちの姿がより鮮明に見えてきます。

【検索キーワードの例】

地質 / 地質年代 / 層序 / 古生代 / 中生代 / 新生代 / 先カンブリア時代 / エディアカラ紀 / カンブリア紀 / オルドビス紀 / シルル紀 / デボン紀 / 石炭紀 / ペルム紀 / 三畳紀 / ジュラ紀 / 白亜紀 / 古第三紀 / 新第三紀 / 第四紀 等

🖥️ 《地質年代表》(<https://geosociety.jp/kiso/timeline/> 日本地質学会)

地質年代は地球規模の層序・地質学に関する問題を扱う国際層序委員会（ICS）により常々見直されています。このページは国際層序委員会が改訂・公開している地質年代表(国際年代層序表)を、日本地質学会が和訳して公開しているものです。**最新の正確な年代値**を知りたい場合に役立ちます。

📖 『理科年表』(国立天文台編 丸善出版)

毎年発行される国立天文台編纂の自然科学分野全般を網羅したデータブックです。暦部、天文部、気象部、物理/化学部、地学部、生物部、環境部の7部門と附録で構成されています。各表にはデータの出典があり、元のデータが掲載されている資料を探すこともできます。「地学部」では、「地質年代表」など**地質年代に関する最新のデータ**を確認することができます。索引もあります。

📖 『〈最新〉地学事典』『〈最新〉地学事典 付図付表・索引』(地学団体研究会編 平凡社 2024)

地質学分野を中心に、**地学全般に関する用語**を収録した事典です。「古生代」等、それぞれの地質年代の項があり、地質年代を調べるのに役立ちます。

📖 『地球大百科事典 下 地質編』(Paul L. Hancock[ほか]編 井田明[ほか]監訳 朝倉書店 2019)

地球に関する科学的情報を網羅した上下全2巻からなる事典です。古生物学や地質学に関する項目は下巻に所収されています。巻末に索引があります。

📖 『古生物学事典』(日本古生物学会編 朝倉書店 2010)

地質、岩石、動植物、研究手法、人物など、**古生物学に関する重要な用語**を解説した事典です。それぞれの地質年代の項もあります。

🖥️ 《地質年代表》(<https://www.gsj.jp/geology/geology-japan/history/index.html> 地質調査総合センター)

日本列島の地質年代の区分を年表にしています。「おもなできごと」には、陸上植物の出現や鳥類の誕生などの生物の進化に関する記述もあります

📖 『古生物学の百科事典』(日本古生物学会編 丸善出版 2023)

古生物学に関する全305項目について見開き2ページごとに解説している、初学者でも楽しめる入門書のような事典です。「2章 層序と年代」では、層序学や地質年代学について、「3章 地史」では、それぞれの地質時代について分かりやすく解説されています。付録には「地質年代スケール」や「地質年代表」(2022年10月版)などもあります。見出し語索引、事項索引、生物名索引、人名索引があり、参考文献が充実しています。

3 古生物について調べる

古生物について調べるには、いくつかの切り口があります。ここでは、以下の3つのアプローチを紹介します。ご自身の興味に合わせて、自分に合った調べ方を見つけましょう

- ① 化石から古生物の生態や生活を知る
- ② 恐竜などそれぞれの古生物の生態や特徴を調べる
- ③ 生きた化石から進化と絶滅について知る

【検索キーワードの例】

古生物 / 化石 / 示準化石 / 示相化石 / 体化石 / 微化石 / 生痕化石 / 化石採集 / 化石燃料 / 古生物学 / 恐竜 / 翼竜 / 海竜 / 魚竜 / 進化 / 絶滅 / 生きた化石 / アンモナイト / 三葉虫 / アノマロカリス / 古代型魚類 等

(1) 化石について調べる

📖『産地別日本の化石750選 本でみる化石博物館・別館』(八木和久著 築地書館 2015)
日本で採れた化石を、産地・時代ごとにまとめ、特徴や産出状況などを写真とともに解説しています。化石にまつわるコラムや「化石採集の方法」「化石標本の整理方法」などの付録も充実しており、採った後の楽しみ方もわかります。巻末には、全国の化石産地一覧、分類別化石名索引がついています。

📖『化石の百科事典』(スティーブ・パーカー著 小島郁生監訳 朝倉書店 2012)
世界の動植物の化石を分類群ごとにまとめ、写真で紹介しています。その分類群に属する生物の生息状況、形態や生態の特徴、化石産出地などが記載されており、分類群ごとに2ページの見開きで構成されています。巻末には用語解説と和名索引、欧名索引があります。

📖『化石図鑑 地球の歴史をかたる古生物たち、示準化石ビジュアルガイドブック』(中島礼, 利光誠一 共著 誠文堂新光社 2011)
示準化石と呼ばれるある特定の時代幅だけに生存し、その時代を代表する化石種を地質年代に沿って写真と復元画で解説しています。巻末には、「化石採集の体験をするには」「化石レプリカの作り方」などの項があり化石への関心をさらに深めることができます。和名索引、学名・英名索引があります。

💻『日本古生物標本横断データベース』(<https://jpaleodb.org/> 日本古生物標本横断データベース)
古生物標本を所蔵する国内の大学・博物館等の標本データを約26万件収録し、検索できるデータベースです。標本はキーワードだけでなく、生物の分類や参加機関からも探すことができます。

💻『和文誌「化石」』(<https://www.palaeo-soc-japan.jp/publications/fossil/> 日本古生物学会)
日本古生物学会が3月と9月の年2回発行する日本語の機関誌『化石』をPDFファイルで閲覧できるウェブサイトです。化石に関する最新の研究成果や書評などが掲載されています。

📖『古生物のカルテ 古病理で楽しむ化石の世界』(土屋健著 林昭次[ほか]監修 ツク之助絵 技術評論社 2025)
化石の異常からその生物の患っていた病気や怪我を科学的に読み解き、解説している資料です。化石に見られる異常から往時の病や怪我に迫る「古病理」の視点から化石を観察することで、古生物の生前の体調や様子を知ることが出来ます。巻末には、症状・病名・負傷原因の索引と、古生物の索引、学名索引があります。

📖『化石観察入門 様々な化石の特徴、発掘方法、新しい調べ方がわかる』(芝原暁彦著 誠文堂新光社 2014)
化石の見方、調べ方などの観察方法について、体化石、微化石、生痕化石などの化石の種類ごとに分かりやすく紹介した化石観察の入門書です。巻末には、3D データを用いた化石の観察などの化石に関する最新の調査方法や、実際に化石が見られる博物館などに関する情報も載っています。

📖『ゾルンホーフェン化石図譜 1、2』(K. A. フリックヒンガー著 小島郁生監訳 舟木嘉浩, 舟木秋子訳 朝倉書店 2007)
ドイツの有名な化石産地ゾルンホーフェンのジュラ紀後期の地層から産出する化石のカラー写真をまとめた図譜です。1巻には、植物・無脊椎動物、2巻には脊椎動物・生痕化石の写真が載っており、鮮明な写真で化石そのものの美しさを楽しむことが出来ます。巻末には、和文索引、欧文索引があります。

『生痕化石の世界 古生物の行動を探る』(福田芳生著 川島書店 2000)

過去の生物の痕跡を生痕化石と呼びます。この資料では生痕化石を、住まい跡の化石、行動の跡の化石、食べ跡の化石、ウンコの化石、病気の跡の化石に分け、写真やイラストとともにその特徴を紹介しています。巻末には動物・植物名索引、一般事項索引もあります。

(2) それぞれの古生物について調べる

『生物の進化大図鑑』(マイケル・J・ベントン他監修 小島郁生日本語版総監修 池田比佐子[ほか]訳 河出書房新社 2020)

生命37億年の歴史を化石のカラー写真や精確なCG復元図でたどる迫力のあるビジュアル図鑑です。それぞれの地質年代(累代)に生きた微生物、無脊椎動物、脊椎動物、植物などの生物を時代ごとに写真と図で詳しく紹介しています。巻末には用語解説や索引もあります。

『リアルサイズ古生物図鑑 古生物のサイズが実感できる! 古生代編』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2018)[熊]※

『リアルサイズ古生物図鑑 古生物のサイズが実感できる! 中生代編』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2019)[熊]※

『リアルサイズ古生物図鑑 古生物のサイズが実感できる! 新生代編』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2020)[熊]※

古生物を現代の風景に配置して大きさやスケール感を想像しやすくした図鑑です。身近なものとの比較により、想像しにくい古生物の大きさが具体的にわかります。古生代編、中生代編、新生代編があり、古生代編は「埼玉県の高校図書館司書が選ぶイチオシ本2018」第1位に選ばれた資料です。

『エディアカラ紀・カンブリア紀の生物』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2013)

『オルドビス紀・シルル紀の生物』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2013)

『デボン紀の生物』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2014)

『石炭紀・ペルム紀の生物』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2014)

『三畳紀の生物』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2015)

『ジュラ紀の生物』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2015)

『白亜紀の生物 上下』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2015)

『石炭紀、ペルム紀の生物』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2015)

『古第三紀・新第三紀・第四紀の生物 上下』(土屋健著 群馬県立自然史博物館監修 技術評論社 2016)

上記、技術評論社の「生物ミステリーPRO」シリーズでは、地質年代ごとにその時代に生きた古生物をカラーの化石写真と古生物のイラストとともに分かりやすく紹介しています。参考文献が充実しており、各巻末には索引もあります。

『恐竜学名大辞典』(松田真由美著, 小林快次, 藤原慎一監修 北隆館 2023)

恐竜の学名の語源とその意味が分かる辞典です。それぞれの学名について読み方、属名、種小名、意味分類が載っています。参考文献が充実しているほか、巻末には、属名早見表、種小名索引などもあります。

『グレゴリー・ポール恐竜事典』(Gregory S. Paul著 東洋一, 今井拓哉監訳 東洋一[ほか]訳 共立出版 2020)

『グレゴリー・ポール翼竜事典』(Gregory S. Paul著 東洋一, 今井拓哉監訳 東洋一[ほか]訳 共立出版 2024)

アメリカの著名な古生物学者であり、古生物骨格図や復元図を専門とする画家でもあるグレゴリー・ポールによる恐竜・翼竜事典です。いずれも「事典」部分と「概説」部分の2部構成されており、事典部分では恐竜、翼竜のカラー復元図と骨格図とともに、学名、全長、特徴、化石として見つかった部位、分布と地層、生態などが詳細に解説されています。また、概説部分では、恐竜や翼竜の研究史、その生態、行動、成長などが詳細に解説されています。巻末には、恐竜名・分類群の和名・英名索引、地層索引が収載されています。

『恐竜・古生物 Q&A』(<https://www.dinosaur.pref.fukui.jp/dino/faq/> 福井県立恐竜博物館)

福井県立恐竜博物館が作成した恐竜や古生物に関する Q&A がまとめられたウェブサイトです。「一番足の速い恐竜は?」「恐竜の視力は?」などの恐竜に関する素朴な質問に対して、写真やイラストを交えた回答が掲載されています。そのほか、化石や地層に関する質問もあります。

- 『恐竜学』(小林快次編 東京大学出版会 2025)
「進化と歴史」「古生理学と古生態学」「日本の恐竜」の3部構成で、日本の恐竜研究の最新の成果を幅広く紹介した資料です。各項目は日本の気鋭の研究者によって書かれており、日本の恐竜研究が体系化されています。巻末に事項索引と生物名索引があります。
- 『恐竜学入門 かたち・生態・絶滅』(FASTOVSKY, WEISHAMPEL[原著] 真鍋真監訳 藤原慎一, 松本涼子訳 JOHN SIBBICK[画] 東京化学同人 2025)
恐竜学について体系的に学ぶことができる初學者向けの教科書です。付録に「上位分類群一覧」や「属名一覧」があり、巻末に生物名索引、和文索引、欧文索引があります。
- 『恐竜の教科書 最新研究で読み解く進化の謎』(ダレン・ナishュ, ポール・バレット著 小林快次 [ほか] 監訳 吉田三知世訳 創元社 2019)
恐竜研究の歴史、恐竜の起源、体の構造、生態、進化、多様性、最新研究など、恐竜に関する基本的な情報を、豊富なカラー写真や復元図とともに解説した資料です。巻末に和英索引と英和索引があります。
- 『海生爬虫類図鑑 太古の海の覇者』(ダレン・ナishュ著 群馬県立自然史博物館日本語版監修 梅田 智世訳 河出書房新社 2025)
プレシオサウルス、イクチオサウルス、アーケロン、モササウルスなどの海生爬虫類の起源、生態、進化、特徴などをカラーのCG図版とともに最新研究に基づき解説しています。
- 『採集と見分け方がバッチリわかるアンモナイト図鑑』(守山容正著 築地書館 2022)
アンモナイトとは、古生代シルル紀末期から中生代白亜紀末までの海で栄えた頭足類のグループです。この資料では、日本で採れるアンモナイトの種類とその見分け方を豊富なカラー写真で紹介しています。採集の極意や主要な産地も載っているほか、参考文献が充実しています。
- 『三葉虫マニアックス 三葉虫綱9目の魅力とその見分け方』(北村雄一編著 秀和システム 2020)
三葉虫は、古生代のカンブリア紀からペルム紀末にかけて、広く世界の海に生息していた底生性の節足動物です。この資料では三葉虫綱9目の特徴や見分け方などをイラストやカラー写真とともに解説しています。「国立科学博物館で三葉虫を学ぶ」「三葉虫の3Dレプリカを作る」などの章もあります。
- 『アノマロカリス解体新書』(土屋健著 かわさきしゅんいち絵 田中源吾監修 ブックマン社 2020)
アノマロカリスは、約5億年前の古生代カンブリア紀の海にいた節足動物です。この資料では、アノマロカリスの最新研究や研究史、愛されてきた歴史などを、絵や図とともに分かりやすく紹介しています。参考文献が充実しており、巻末には索引もあります。

(3) 生きた化石について調べる

- 『生きている化石』(栃木県立博物館編 栃木県立博物館 1992)
40億年という長い生命の歴史のなかで、多くの生物が絶滅していくなか、何度も絶滅危機を乗り越え、何億年という時を生き延びている「生きた化石」と呼ばれる生物がいます。この資料は、平成4年に栃木県立博物館で開催された展示「生きている化石」の図録で、「生きた化石」をランソウ、植物、昆虫、無脊椎動物、脊椎動物などに分けて紹介しています。
- 『シーラカンスは語る 化石とDNAから探る生命の進化』(大石道夫著 丸善出版 2015)
3億年以上その姿を変えず生きのびている魚「シーラカンス」の化石の研究とDNAのゲノム解読の結果から分かる、生命の進化についての最新の知見を分かりやすく解説した資料です。
- 『〈生きた化石〉生命40億年史』(リチャード・フォーティ著 矢野真千子訳 筑摩書房 2014)
この資料では、「生きた化石」の驚異の進化やその生存戦略に迫ります。巻末には、事項索引、生物名索引があります。
- 『今を生きる古代型魚類 その不思議なサカナの世界』(今木明, 河本新編著 淡輪俊, 多紀保彦監修 東京農業大学出版会 2008)
3億年以上その姿を変えずその姿を変えず現代まで生き続けている魚類「古代型魚類」の生態を化石のカラー写真などとともに詳細に解説した資料です。レプリカの作成方法や、食としての古代型魚類、漁獲事情などに関する記載もあり、多様な視点から古代型魚類について知ることができます。

4 埼玉の古生物について知る

埼玉にも古生物の痕跡がたくさん残っています。ここでは、古秩父湾、パレオパラドキシア、アケボノゾウなどに関する資料を中心に、太古の埼玉に生きた生き物たちの生態を知ることができる資料をご紹介します。

【検索キーワードの例】

古秩父湾 / パレオパラドキシア / チチブクジラ / オガノヒゲクジラ / 露頭 / カルカロドン / メガロドン / アケボノゾウ 等

『知って！埼玉 化石でたどる 2000 万年 令和元年度埼玉県立自然の博物館特別展』(埼玉県立自然の博物館[編] 埼玉県立自然の博物館 2019)

令和元年に埼玉県立自然の博物館で実施された展示「知って！埼玉 化石でたどる 2000 万年」の展示解説書です。パレオパラドキシアからサイやゾウまで、[埼玉県内各地で発見された代表的な化石](#)を紹介しています。

『古秩父湾 秩父の大地に眠る太古の海の世界』(埼玉県立自然の博物館 埼玉県立自然の博物館 2016)

今から1700万年前～1500万年前ごろまで、秩父盆地には「古秩父湾」と呼ばれる海が広がっていました。この資料では、当時の地層や発見された化石などから、[古秩父湾の様子](#)を紐解きます。また、「第3章 古秩父湾海棲哺乳類化石群」では、埼玉県から産出したパレオパラドキシアなどの化石が、学名、分類、発見年、地層名、産出地、関連論文、産状、産出部位とともに詳細に解説されています。

『恐竜時代 海と陸の支配者たち 平成26年度特別展』(埼玉県立自然の博物館 埼玉県立自然の博物館 2014)

平成26年に埼玉県立自然の博物館で開催された展示「恐竜時代 海と陸の支配者たち」の展示解説書です。[中生代の生き物](#)を陸の生き物、海の生き物に分けて紹介しています。また、「III 埼玉の恐竜時代」の章では中生代の埼玉の地質、化石などが解説されています。

『ぐるり埼玉石ものがたり 49』(関根久夫著 幹書房 2014)

埼玉の「石」を自然、祈り、歴史、生活、伝説、遍路、人の7つのテーマごとに紹介している資料です。歴史を知ることができる石として、p90-93「[アケボノゾウの化石](#)」の項があります。

『埼玉・大地のふしぎ』(埼玉県立自然史博物館編 埼玉新聞社 2004)[熊外]※

[埼玉県内の地質や鉱物、古生物](#)についてまとめた資料です。p10 の「地質年代と化石」の表からは、地質年代と県内で発見されたその年代の主な化石を知ることができます。カラー写真がふんだんに使われており、巻末には索引や埼玉の天然記念物(地質鉱物等)一覧などもあります。

『入間昔むかし アケボノゾウの足跡』(入間川足跡化石発掘調査団編 入間市博物館ALIT 2003)

平成3年に入間川で発見された[アケボノゾウの足跡の化石](#)を中心に、足跡の化石が見つかった地層やその地層から発見された化石から分かる当時の自然環境などについて詳しく解説されています。

埼玉県古生物について調べることのできるインターネット情報

《埼玉関係データベース》

(<https://www.lib.pref.saitama.jp/local/opac/search-detail.do?lang=jal> 埼玉県立図書館)

埼玉県立図書館が作成した「埼玉新聞記事見出し索引データ」「埼玉関係雑誌記事索引データ」「埼玉関係人物索引データ」「埼玉県内史誌目次データ」が検索できるデータベースです。例えば「パレオパラドキシア」で検索すると、埼玉新聞のパレオパラドキシアに関する記事の見出しなどがヒットします。

《古秩父湾の化石 埼玉県立自然の博物館》

(https://jpsearch.go.jp/gallery/saitamapref-smnh_002 JAPAN SEARCH)

ジャパンサーチは、日本のさまざまな分野のデジタルアーカイブと連携し、多様なコンテンツをまとめて 検索・閲覧・活用できるプラットフォームです。このページでは、埼玉県立自然の博物館に所蔵されている秩父盆地から見つかった様々な生物の化石が紹介されています。

5 古生物の研究について知る

古生物学は、日々研究により新しい発見のある分野です。そのため、古生物学の最新研究について知るには、インターネット情報や、論文、雑誌、新聞などの新しい情報を確認する必要があります。ここでは、最新の古生物研究について知ることのできるデータベース、雑誌、新聞をご紹介します。

(1) オンラインデータベース等で最新情報を調べる

「オンラインデータベース」とは、ある特定のテーマやジャンルの情報を収集・整理し、オンライン上で検索できるようにしたもののことです。埼玉県立図書館で提供しているデータベースでは、**正確かつ専門的な情報を手軽に検索することができます。**

より深く研究について調べる時には、論文等が検索できる**オンラインデータベース**を利用するとよいでしょう。

埼玉県立図書館では、全部で 19 種類のオンラインデータベースを無料でご利用いただけます。
(※プリントアウトは有料です。)

ご利用になりたい方は、県立図書館の「図書館カード」、又は住所を確認できるものをお持ちのうえ、図書館カウンターまでお越しください。

図書館でご利用いただけるオンラインデータベースの一覧や詳しい利用等については、《埼玉県立図書館ウェブサイト》内「データベース紹介」のページ

(<https://www.lib.pref.saitama.jp/guide/business/database.html>)

からご確認いただけます。

《JDreamIII》(ジー・サーチ)

科学技術や医学・薬学分野の文献情報を検索できる、日本最大級の科学技術文献データベースです。論文ごとに概要や適切なキーワードを付与し、外国語文献には日本語の抄録がつくため、国内外の膨大な科学技術分野の文献を手軽にかつ的確に検索することができます。記事本文をデータベースから直接見ることはできませんが、一部全文リンクがあるものがあります。

ほかにも、以下のインターネット情報で最新の論文や論文の書誌情報を調べることができます。

《CiNii Research》(<https://cir.nii.ac.jp/> 国立情報学研究所)

学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどの学術論文情報を検索できます。**学術論文の書誌情報**について、広く調べたい時に便利です。リンク先で公開されているオープンアクセス論文の本文を閲覧することも可能です。

例:〈恐竜〉で検索すると...

大山望, 脇田浩二著「上部三畳系美祢層群桃ノ木層の昆虫化石群と含化石層の堆積環境」(『地質学雑誌 131 巻 1 号』p475-488 日本地質学会 2025.12

https://www.jstage.jst.go.jp/article/geosoc/131/1/131_2025.0037/_pdf/-char/ja)など多数の論文がヒットします。

《J-STAGE》

(<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja> 国立研究開発法人科学技術振興機構) 4,000 誌以上の科学技術(人文科学・社会科学分野も含む)の刊行物を収録した**電子ジャーナルのプラットフォーム**です。ほとんどの記事が無料で閲覧できるため、その場で本文が入手できる科学技術分野の学術論文を調べたい時に便利です。

例:〈化石〉で検索すると...

宮田真也, 西岡佑一郎, 樽創著「伊豆半島の中新統湯ヶ島層群から産出したハリセンボン科化石」(『Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 69巻』p39-52 鹿児島大学総合研究博物館 2026.7 [jstage.jst.go.jp/article/ichthy/69/0/69_39/_pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/ichthy/69/0/69_39/_pdf/-char/ja)) など多数の論文がヒットします。

(2) 雑誌で最新情報を調べる

当館で所蔵している雑誌の一覧はこちらから確認できます。

《埼玉県立図書館ウェブサイト》内「埼玉県立久喜図書館 継続購入雑誌一覧」

(<https://www.lib.pref.saitama.jp/collection/magazine/magazine-kuki.html>)

古生物に関する記事が載っている雑誌には以下のようなものがあります。

『日経サイエンス』2026年10月号「特集：恐竜大発見」

『現代化学』2026年8月号「特集：新・古生物学 最新科学が描く太古の世界」

『Newton』2026年8月号「特集：驚異の恐竜」、2025年12月号「特集：大量絶滅のミステリー」

また、雑誌記事の検索には、以下のオンラインデータベースもご活用ください。

🔍《Web OYA-bunko》(大宅壮一文庫)

幅広いテーマ・ジャンルの雑誌を所蔵する**大宅壮一文庫の雑誌記事索引**を検索できるデータベースです。多様な検索方法から特定の人物やことごとについて、記事のタイトル、雑誌名、発行日、掲載ページなどが調査できます。

🔍《MagazinePlus》(日外アソシエーツ)

一般誌から専門誌、大学紀要、海外誌紙まで収録した**雑誌記事(書誌的事項)**のデータベースです。キーワード等から、お探しの記事や論文がどの雑誌や論文集に掲載されているか検索できます。

(3) 新聞記事で最新情報を調べる

当館で所蔵している新聞の一覧はこちらから確認できます。

《埼玉県立図書館ウェブサイト》内「埼玉県立図書館所蔵購入新聞一覧【日本語新聞】」

(<https://www.lib.pref.saitama.jp/collection/newspaper/news-list-01.html>)

また、新聞記事の検索には、以下のオンラインデータベースもご活用ください。

🔍《朝日新聞クロスサーチ》(朝日新聞社)

1879(明治12)年からの**朝日新聞の記事**や『AERA』、『週刊朝日』、『アサヒグラフ』、人物データベース、歴史写真アーカイブ等の検索及び閲覧ができるデータベースです。

例：〈古生物〉で検索すると...

「1600万年前——出雲にシシャモ 島大など、16年発見の化石 新種と判明／島根県」『朝日新聞 2026年6月4日 大阪島根全県・1地方 朝刊』19面などの古生物に関する記事がヒットします。

🔍《毎索》(毎日新聞社)

1872年創刊号からの**毎日新聞の記事検索・閲覧**が可能です。埼玉版は1994年1月から収録されています。このほかに『週刊エコノミスト』や英字ニュースも検索ができます。

例：〈恐竜〉で検索すると...

「〔化石〕恐竜時代の哺乳類発見 久慈の地層に「真獣類」化石 人類の遠い祖先か 新種の可能性／岩」『毎日新聞 2026年8月1日 毎日新聞地方版 朝刊』17面などの恐竜に関する記事がヒットします。

熊谷図書館では、読売新聞や日本経済新聞などの記事も検索できます。

発行：埼玉県立久喜図書館 自然科学・技術資料担当
埼玉県久喜市下早見 85-5 Tel:0480-21-2659

※ウェブサイト、データベースの情報は令和8年8月末時点のものです。

